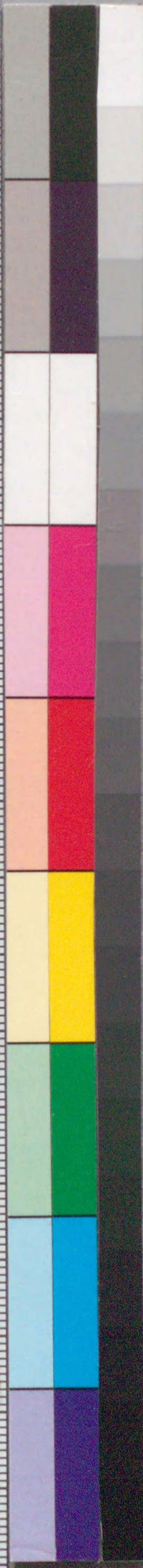
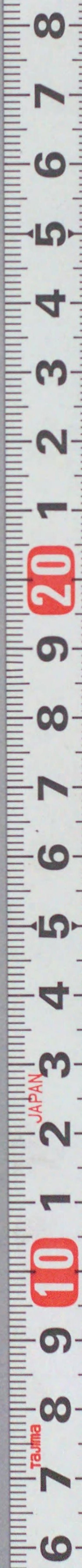


南洲  
北遊  
密古事附太平記  
完

207  
64





たのんえ

席

青橋河玉の筆すも政経且赤仕着小袖

を對ふ流し赤江君をせやくおのひ

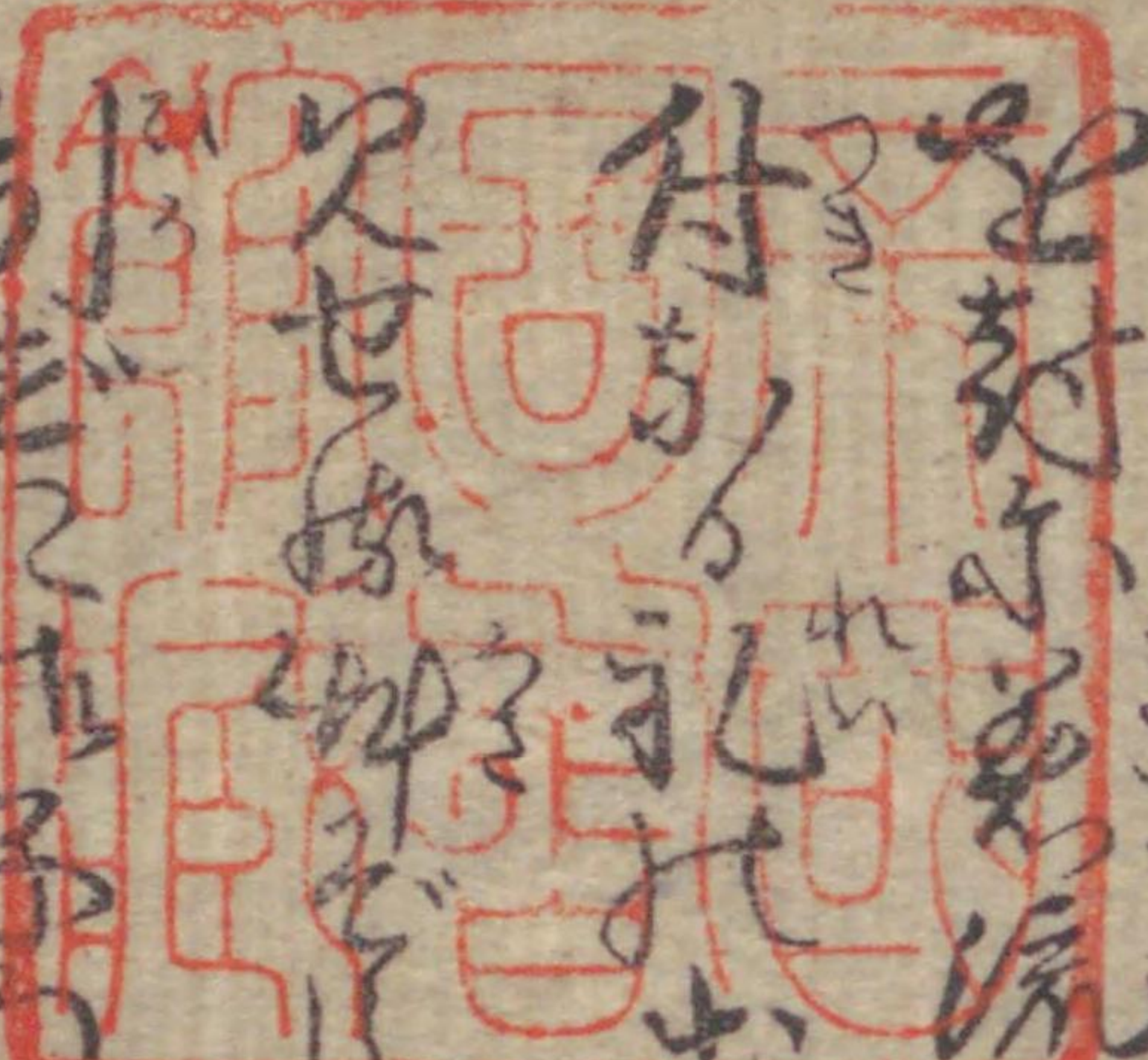
付あつたおちも安永十年世の法入糸

尺七條おちしるが陣どお加ふちり風を交

引むに由りおちおち抱あふる遊ぶとつふ字のそ

貴成くも色ハごご第一中のおのり相六のト

咲言集浪ハヤらの一切之方此者ハ益ニ成



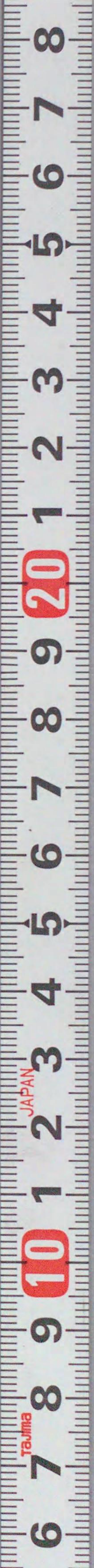


田んぼつゝ先づふ川舟傾城立下りて  
 床兼魚一七波アかん様もあこし  
 涉祝夜じアお暮様もお好ぬらあらも  
 花きだぐる地ろあの新造らん尾がら月と出  
 張とと窓のつよのみあやもあつり  
 お後平至川くハ九巻るの巻鼻ひるも  
 ぞして強敷ちくと廊びのさび書り  
 舟川がみ是で字せこのしんものまを建良

新の巻代あまやと有と  
 下川を南見り別たあじ  
 舟くをわつからう熱巻の  
 知重涉決の巻由町活  
 判早一々 松村添昔傳  
 西百巻内  
 春あく  
 高りお







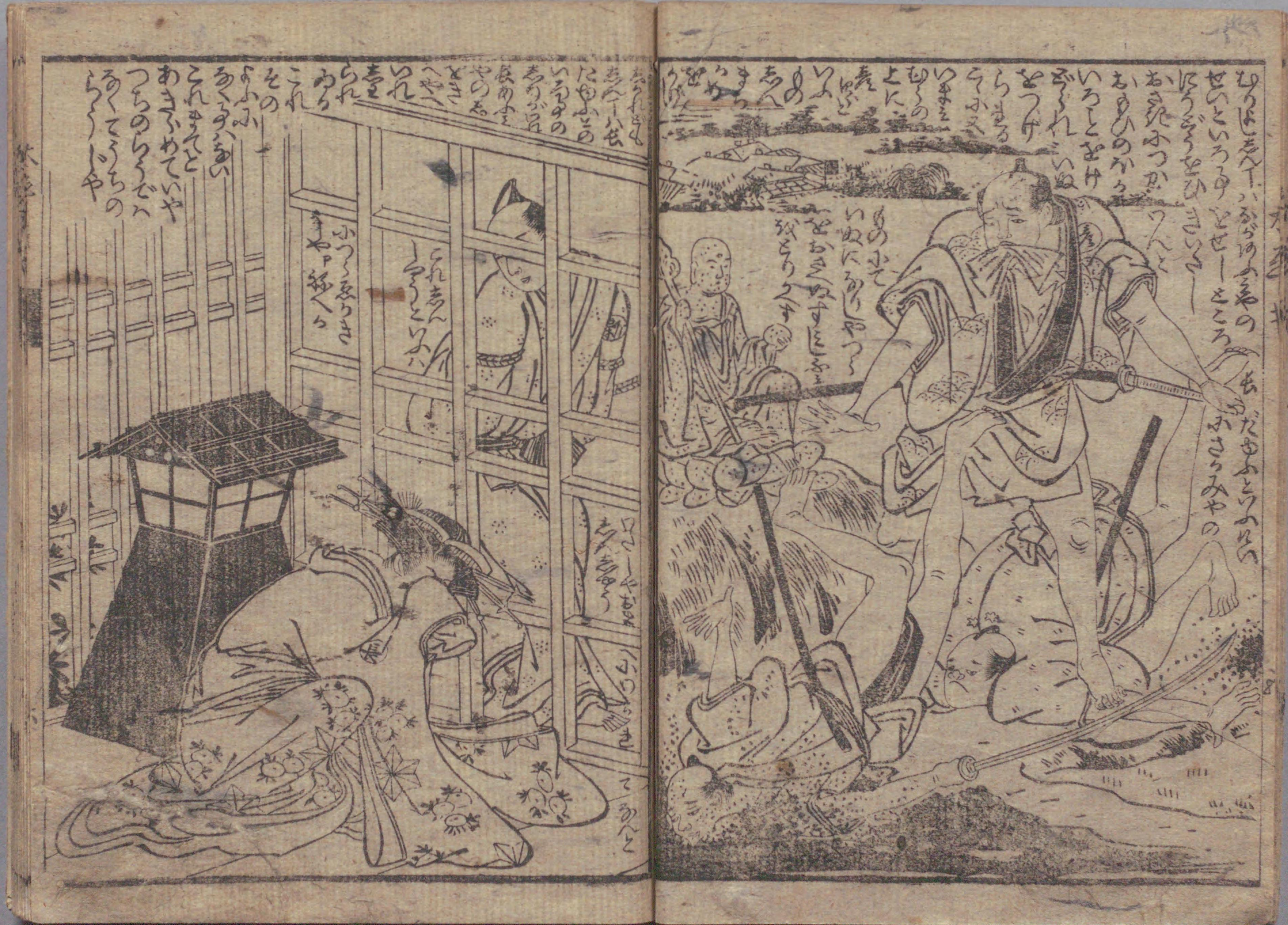












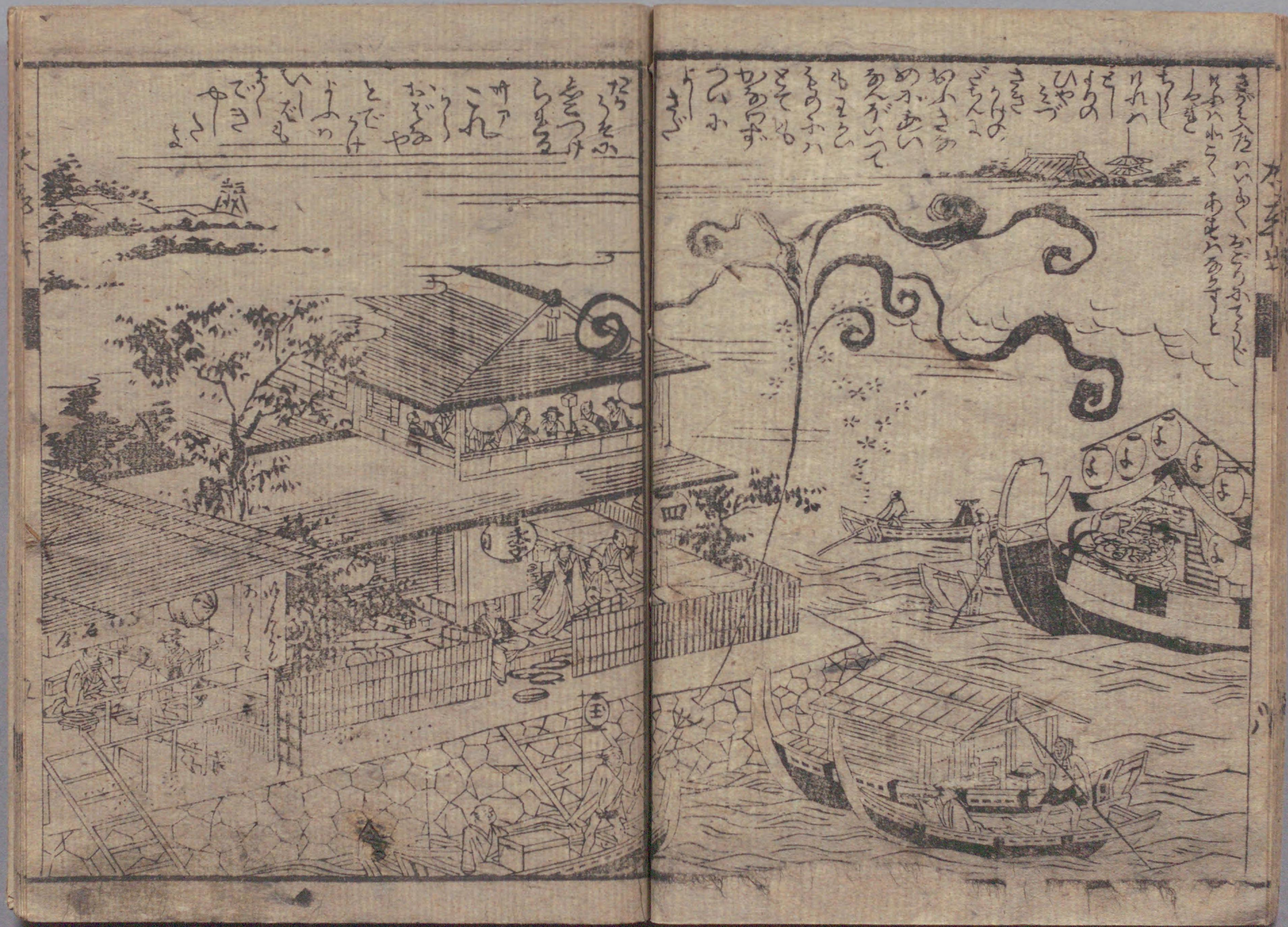












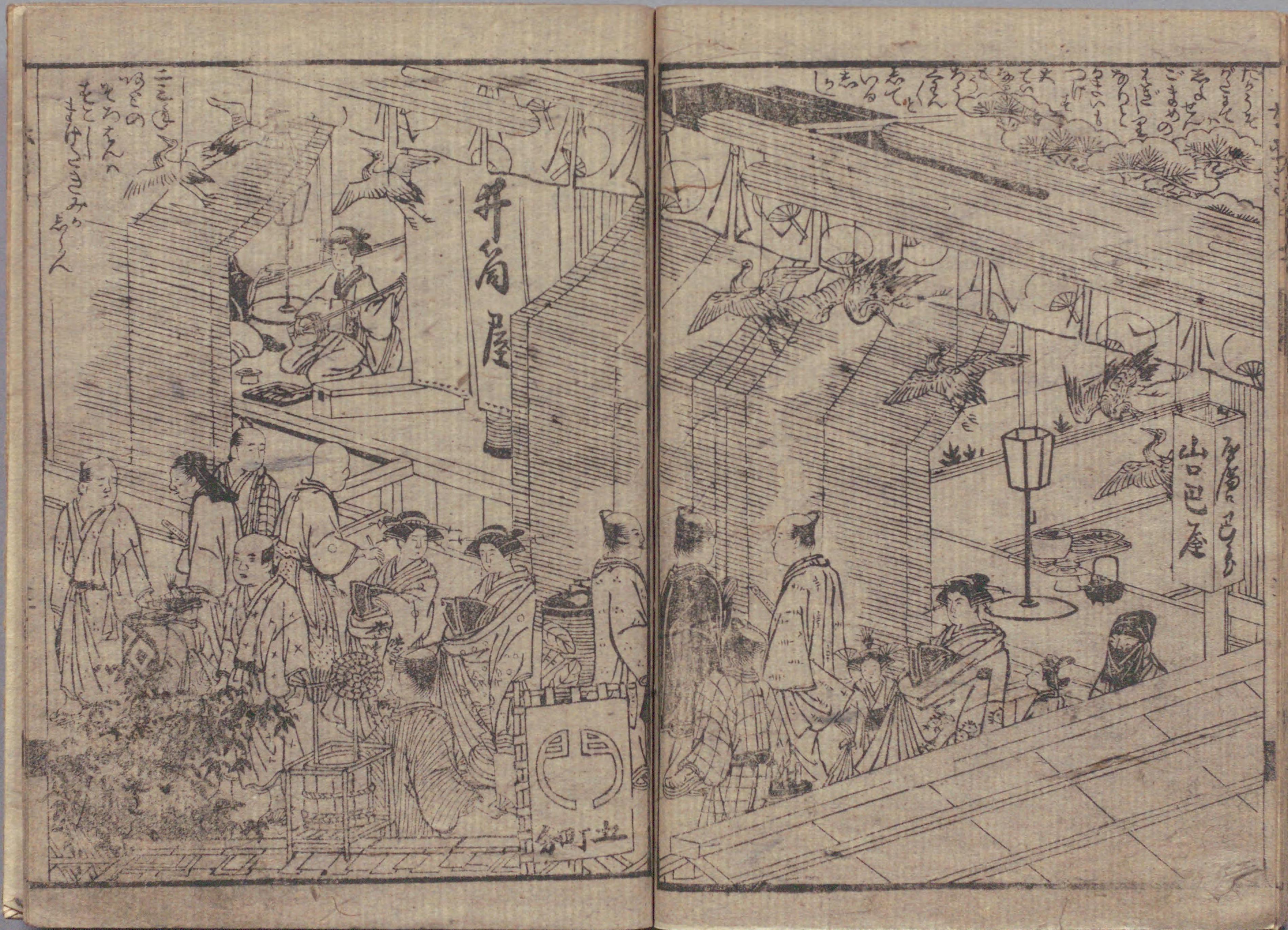




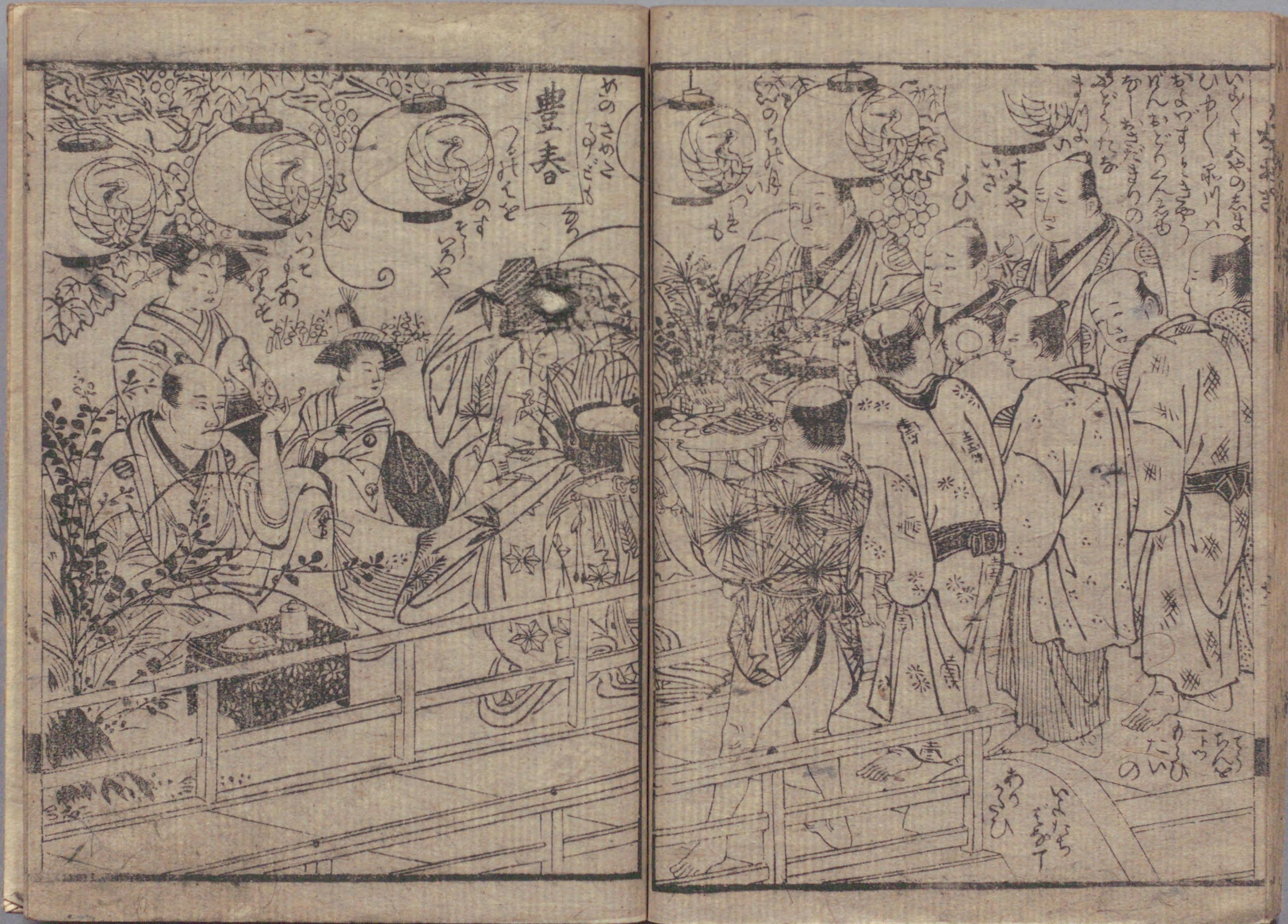




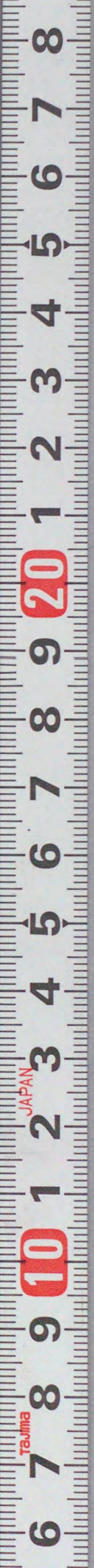
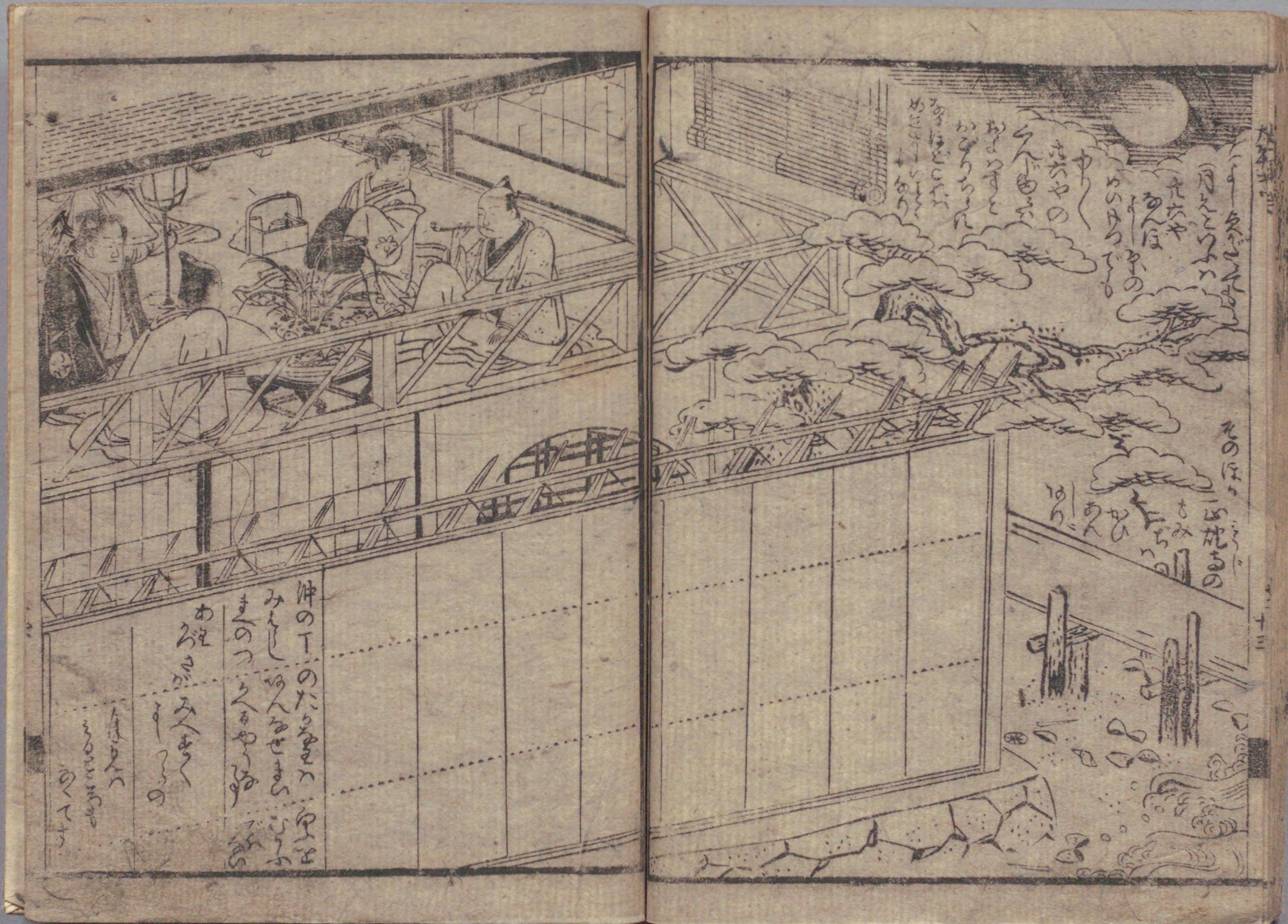














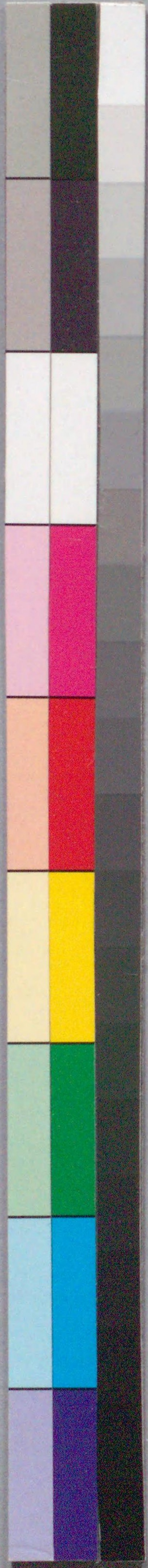




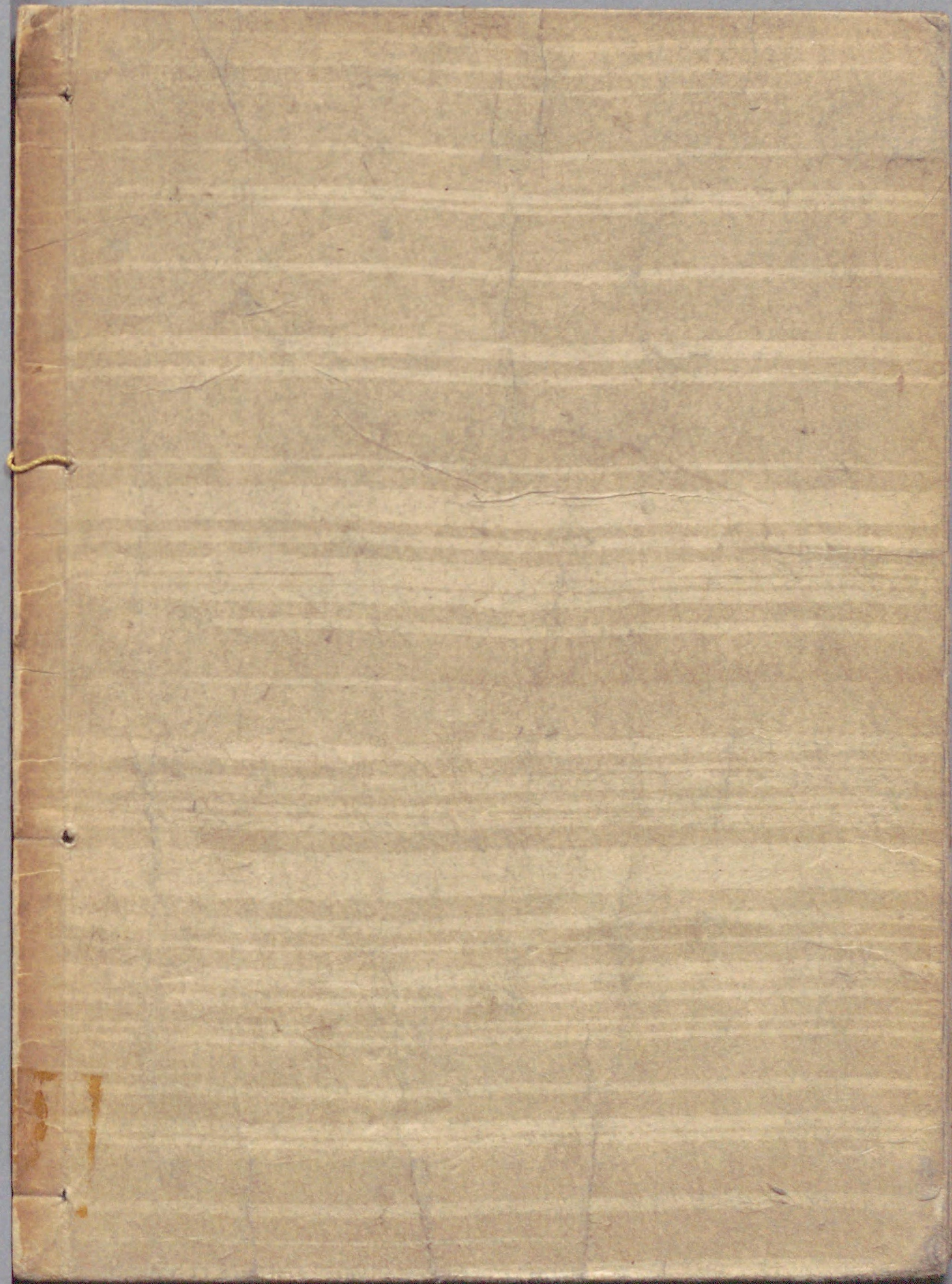
207  
64







国立国会図書館 遊客古事附太平記 : 3卷 207-64



ガラス使用

